

演題名	黄色ブドウ球菌対策による乳質向上効果		
発表者名 氏名	須田 朋子	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>2002年4月から2003年4月まで、バルク乳の体細胞数が多い酪農家40戸でバルク乳の細菌検査をしたところ、黄色ブドウ球菌（以下SA）が22戸で検出された。このため、SA対策として全搾乳牛の個体乳細菌検査及び搾乳立会を順次実施した。酪農家への重点指導項目はポストディッピングは乳頭全体の75%以上を漬す、SA感染牛は最後に搾乳し、早期乾乳期治療を行い、治癒困難な場合は淘汰する、分娩後は直ちに細菌検査を実施するの3点とした。この結果、SA対策実施農家12戸のバルク乳1ml当り平均体細胞数は、指導前507千個から391千個に減少した。また、経済効果を検討するため牛群検定参画農家について、費用便益分析法を用いて分析したところ、経産牛1頭当り1年間の純便益は5,151円となった。SA対策の実施は、乳質及び経済性の向上に有用であると思われた。</p>			